

由良川の水防災対策

輪中堤の地盤改良工事進む



下東地区で進む工事 (写真=福知山河川国道事務所提供)



完成した志高地区輪中堤
国道側の人家への浸水を防ぐ

由良川の治水対策

加佐地域を流れる由良川では、昔から大雨や台風による水害が発生し、近年では、平成16年の台風23号、平成25年の台風18号によって、その沿川地域に甚大な被害をもたらしました。

これらの災害を受け、由良川を管理する国土交通省は、本来20～30年で実施される治水事業の期間を約10年に短縮し、由良川下流部緊急水防災対策事業（平成27年度完了）を実施しました。また、平成25年度からは、由良川緊急治

水対策事業が行われており、由良川の治水対策が急ピッチで進められています。

治水対策の手法は、集落を囲うように堤防を築く「輪中堤の築造」と浸水する地区の家屋を持ち上げる「宅地かさ上げ」の2つの手法で実施されています。

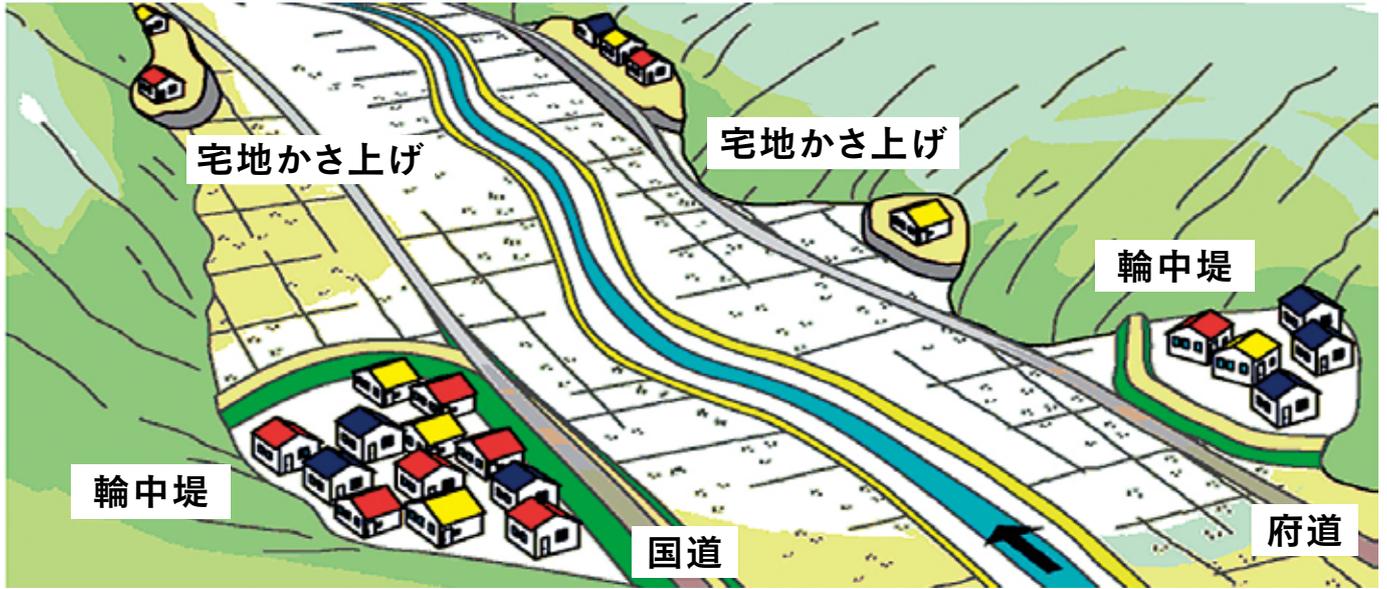
輪中堤の整備

加佐地域では、6地区で輪中堤の設置を進めており、既に志高地区（志高）、大川地区（大川・八田・八戸地・丸田西）、上東地区（上東）、水間・中山地区（水間・水間下・中山）の4地区は輪中堤本体が完成しています。現在は取り付け道路や水路整備など堤防周辺の整備工事が進められています。

また、下東地区（下東）と三日市地区（三日市）の2地区は、輪中堤の盛土を行うため、地盤を固める工事を行っており、平成31年度の完成を目指して、工事が進められています。

※輪中堤：一定の区域を河川の氾濫から守るため、その周辺を囲むようにつくられた堤防

【水防災対策の実施イメージ】 輪中堤と宅地かさ上げの手法を用いて対策を実施



宅地かさ上げ事業を実施中



▲計画高水位より地盤を上げることで浸水被害を防ぐ。



▲地盤を高くする宅地かさ上げ工事の様子。過去の洪水水位を基に算定した高さ(計画高水位)以上に施工。

整備中の輪中堤概要

- ◇下東地区
延長 約1, 300m
- ◇三日市地区
延長 約1, 100m

宅地かさ上げ事業

輪中堤の実施地区以外で家の浸水が想定される地区では、宅地かさ上げ事業で洪水による被害を防ぐ対策を図っています。

進捗率は全体で4割(戸数比、平成29年7月現在)で、引き続き事業を進めていきます。

自身の安全確保を

治水対策には、一定のハード対策が実施され、現在早期完成に向けて事業が進められています。ハード整備だけで絶対安全というものではありません。「自身の安全確保」を最優先に、災害時には避難所への早めの避難や2階への避難など、命を守る行動を取りましょう。

《国・府事業推進課、危機管理・防災課》

市議会が現地を視察



舞鶴市議会の建設委員会による現地視察(下東地区)が7月25日に行われました。現地では、国土交通省福知山河川国道事務所の瀧澤洋副所長から工事の進捗状況や計画などの説明を受け、活発な意見交換が行われました。